

【概要】携帯電話世界需要予測 2006年度版 ~ 2008年までの需要展望 ~

本予測は、報告書として12/14(木)より有償頒布いたします。詳細は新刊案内をご覧ください。

1. 予測範囲

(1)対象機種

携帯電話（自動車電話は含む。PHSは含まない。）

(2)主な対象国・地域

【主な対象50カ国・地域】		
アジア・パシフィック 13カ国・地域 日本 韓国 台湾 中国 インド タイ マレーシア インドネシア フィリピン ベトナム パキスタン シンガポール オーストラリア	西欧 15カ国 英国 ドイツ フランス イタリア スペイン デンマーク ベルギー オランダ ポルトガル ギリシャ スイス ノルウェー スウェーデン フィンランド オーストリア	中近東・アフリカ 8カ国 サウジアラビア イスラエル トルコ 南アフリカ エジプト モロッコ アルジェリア ナイジェリア
北米 2カ国 米国 カナダ		
中南米 6カ国 ブラジル アルゼンチン ベネズエラ メキシコ チリ コロンビア	中東欧 6カ国 ロシア ポーランド チェコ ハンガリー ルーマニア ウクライナ	

世界計では、上記の主な対象50カ国に「その他の国」を加えている。

(3)対象年

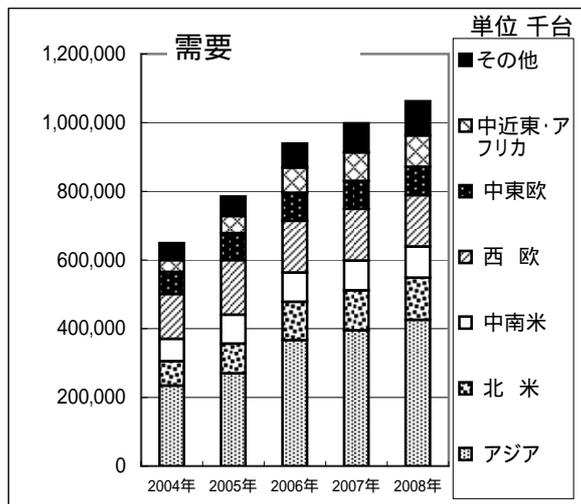
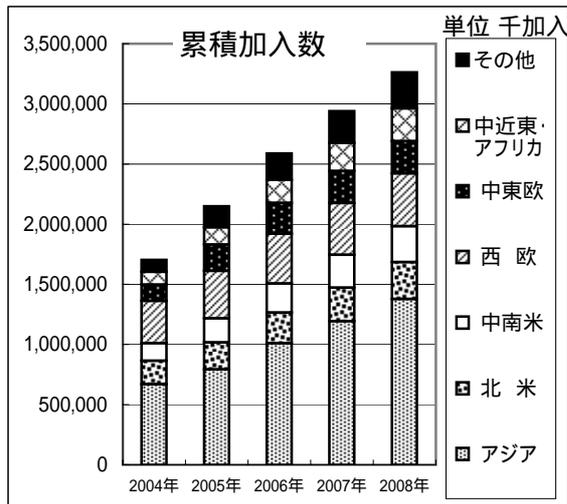
2006年～2008年の3カ年（暦年ベース） 注：日本のみ年度ベース

2. 用語

- (1)累積加入数：調査対象年末時点の加入数
- (2)普及率：人口普及率（累積加入数/人口*100）
- (3)需要：新規需要+買替需要

要 約

- ・2008年の世界累積加入は年平均12.3%の伸び率で32億6,286万加入と30億を超え、人口普及率は48.0%とほぼ半数に近づくと予測した。
- ・2008年の世界需要は10億6,250万台と年平均6.4%の伸び率になると予測した。既に巨大市場となっている中国と最近急速に伸長しているインドを中心にアジアが今後も市場を牽引すると予測した。
- ・2008年でも方式別では、2Gが69.5%と依然として高いウェイトを占めているが、普及の進んだ国々では、3G以上へ移行していくと予測した。



【地域別需要の特徴】

アジア・パシフィック

- ・地域別で最大市場のアジアは、世界最大需要国である中国、及び急速に伸びているインドを中心に、2008年まで年平均7.8%と大きな伸び率で、引き続き世界の携帯電話市場を牽引する。
- ・インドは人口の多さ、普及率の低さを背景に新規加入が大きく伸びていき、2006～2008年の累積加入数は、全世界で1位の200%の年平均伸び率になる。しかしながら2008年の普及率は26.4%であり長期的にはさらに大きな市場成長が予想される。

北米

- ・アジア、西欧に次ぐ市場規模の北米の需要は、年平均4.8%の伸び率で好調に推移する。
- ・3G以上のサービス本格化に伴い、市場の活性化が図られ、新規加入、買替えも堅調に推移し、2008年も世界第2位の需要を維持する。

中南米

- ・新規加入の急速な増加により、2004年、2005年と需要は急激に伸び、その後も安定した需要が続くと予測した。
- ・ブラジル、メキシコの2大市場を中心に順調な伸びで推移していく。
- ・需要を牽引するのは、ローエンドの端末が中心であり、さらにプリペイド型の普及が進んでいることなどにより、ランニングコストの低減が更なる需要喚起になると考えられる。

西欧

- ・SIMカードなどにより西欧全体の普及率は100%を超えており、買替需要は横ばいで推移する。
- ・主要通信事業者が一斉に3Gのサービスを開始しており、2Gからの移行が本格化しつつある。
- ・多くの国が飽和市場になる中、3G以上への移行とともにアプリケーションのサービス充実化やデータ伝送の増加等通信事業者の施策と市場全体への浸透が焦点になると考えられる。

中東欧

- ・利用者は複数のSIMカードを持つ等西欧に近い需要傾向と考えられる。
- ・ロシア、ウクライナでは加入数が急速に増え、特にロシアの2006年の普及率は西欧並みの100%近くになると見込まれ、2007年以降も需要は安定して伸びていく。

中近東・アフリカ

- ・年平均11.0%と最も需要の拡大が予測される地域である。全体から見れば市場規模は小さいが、普及率の低い国々が多く、今後の有望な市場として期待できる。
- ・端末は、ローエンドよりもさらに安価なスーパーローエンドが主流であり3Gへの移行は緩やかに推移していくと考えられる。